



さらなる町の発展に向け

全ての町民が結集したまちづくりを目指して

益城町長 西村博則

新年を迎えるにあたり、謹んでごあいさつを申し上げます。

令和最初の年明けを迎え、皆さまにはお健やかに新年をお迎えのこととお喜び申し上げます。

震災から4年目の新年を迎えました。この4年の間、全国では多くの大規模な自然災害が発生しました。ここにあらためて、熊本地震をはじめ、自然災害によりお亡くなりになられた方々のご冥福をお祈り申し上げますとともに、被災された皆さまに心よりお見舞い申し上げます。

本町では、いまだ被災された皆さまが2,000人程、仮設住宅などでの生活を余儀なくされておられます。一日でも早く生活再建、住まいの再建をしていただけるよう、災害公営住宅の整備や宅地の復旧に取り組んでおり、仮設住宅などに入居されておられる被災者の皆さまに、最後までしっかり寄り添ってまいります。さて、給食センターの復旧を皮切りに、

陸上競技場の復旧など、町の公共施設の復旧も着実に進んでまいりました。本年7月頃には、総合体育館もご利用いただけるようになり、また、災害公営住宅も本年3月末には全て完成いたします。

復旧・復興が着実に進んでいる中、これから私たちは、復旧・復興後の姿を見据えて、真に豊かな町につながるような取り組みを展開していかねければなりません。

町では、熊本地震からの復興のシンボルである、県道熊本高森線の拡幅と木山区の土地区画整理事業の整備に合わせ、物産館や交通広場、まちの商店街などの整備を行うことにより、町の活性化を図るとともに、町外から多くの人が本町に訪れていただけるような、「にぎわい」の拠点整備に取り組むこととしております。

そのにぎわいを、拡幅される県道熊本高森線沿線に波及させ、多くの人々が集い、益城のおいしい農産品を求め、食し、また、店々でたくさんの方が買い物を楽しんでいる姿を描いて、さまざまな施策を展開してまいります。

そして、さらに町全体に「にぎわい」を波及させ、町外から「益城町に行ってみよう」と思ってもらえるまちづくりを展開したいと考えております。

「にぎわいづくり」の主体は、町民の皆さまです。町民の皆さま方が、主体的に取り組みを展開し、そして参画いただくことが重要です。

さらには、子育てや教育、文化、スポーツ、福祉、医療など、さまざまな分野の方々にも参画していただき、魅力ある益城町を創ることに、新たな定住に繋がるものと思っております。

併せて、震災検証結果を踏まえ、安心安全なまちづくりのため、各地区のまちづくり協議会などの協力のもと、避難地・

避難路の整備や防災倉庫の整備に積極的に取り組みます。

住みたいと思ってもらえるような町となるためには、こういった魅力ある取り組みがなされていること、そしてそこに住む人たちが豊かな心をもって住んでいることが大切です。

震災からの完全復興は、行政の力だけでは、決して成し遂げられるものではありません。成し遂げるには、「オール益城」の精神のもと、全ての町民が結集したまちづくりを目指す必要があります。

真に豊かな、全国から羨望されるような町となるよう、さらには、ご支援をいただきました全国の皆さまへの恩返しのためにも、町民の皆さまと心を一つにして、新たな一歩を踏み出してまいります。

結びになりますが、令和の時代が幕を開け、本年が町民の皆さまにとりまして、希望に満ちた素晴らしい一年となりますようお祈り申し上げます、年頭のごあいさつといたします。

